バイオサイエンス学科　学会発表

【発表者について】アンダーラインは本学教員、研究員および技術職員、○は発表者、※は大学院生、卒研生または卒業生

学会名	第39回日本生物学的精神医学会・第47回日本神経精神薬理学会
演題名	胎生期バルプロ酸暴露マウスの社会性行動障害のラパマイシン投与による改善
発表者	○村上浩子、小林敏之、柏井洋文、佐藤敦志、萩野洋子、田中美歩、西藤泰昌、高松幸雄、内野茂夫、池田和隆　【神経生物学研究室】
内容	平成29年9月28日、札幌コンベンションセンターで開催された日本生物学的精神医学会・日本神経精神薬理学会の合同大会で、村上浩子（内野研元博士研究員）が東京都医学総合研究所との共同研究結果を発表した。これまでに、内野研では発達神経毒であるバルプロ酸（VPA）を胎児期に暴露させた発達障害（自閉スペクトラム症(ASD)）病態モデルマウスにおいて、運動機能障害や不安誘発、社会性行動異常などASD様行動を確認した。本研究では、ASDの神経病態との関連性が示唆されているmammalian target of rapamycin (mTOR)シグナルに着目し、mTOR阻害剤であるラパマイシンの薬理効果を検討した。その結果、ラパマイシンの投与により、VPAによる社会性行動異常の改善が確認された。本研究成果は、今後のASDの創薬研究の発展に貢献できるものとして期待できる。